

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 1日

事業所名 みつばち加神アフタースクール

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	利用者のニーズに応じて、配置の工夫をしている。	活動室の広さについては適切であるが、個別のスペースを確保するのは、難しい。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		職員数に関しては問題ない。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		利用者が使用する設備等については、問題なく使えるよう配慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	日々のミーティング等で、意見交換をしている。	支援内容を明確にしていき、利用者への関わりであったり、日々の活動を実のあるものにしていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		送り迎え等で、保護者様と話をする機会を設け、その日の利用者の様子や支援等の話をしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		HPで利用者の活動の姿や配布物の掲載などしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		今後、第三者による外部評価を検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%		コロナによる影響で、満足した研修機会を設けることが難しかった。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		より良い支援を提供していくために、日ごろからアセスメントを適切に行い、支援計画の作成に努めている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	40%		標準化されたアセスメントツールを使用し、適切な支援を行っていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	実際に利用者の声をきいて、活動プログラムに取り入れている。	決められた時間の中で、利用者のために最善の選択をし、有意義な時間を経験させていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		マンネリ化しないよう、季節の行事や楽しい企画を考え、予定を立てている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		平日は時間的に課題をこなすことが難しいので、関わりの中でそれぞれに合った支援、対応を心掛けている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個の様子を細かく記録し、支援へと活かしている。	常に利用者の課題やニーズは変化していくので、今後も見守りながら、適切な支援を行っていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	ミーティングや職員とのコミュニケーションを大切にし、意見の出し合える関係を築いている。	今後もミーティングを行っていき、気付いたことや記録をもっと活用し、支援へとつなげていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	引き継ぎ簿を通して、皆で情報を共有できるようにしている。	その日に起きた問題等も、その日の内に解決できるよう、迅速に対応していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		記録をもとに支援を考えていき、利用者の苦手としている部分を少しでもできるように近づけていきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		定期的なモニタリングを行い、必要に応じて見直しの判断をし、より良い放課後等デイサービスとして向上を図っていきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%		ガイドラインの総則に遵守して、質の高い支援を行っていけるよう努めていきたい。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		その会議に適した者を参画しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	保護者の方や、学校の先生と関係を築けたことで、情報の共有を行えている。	学校とデイサービスでの支援を一貫していくことで、利用者がスムーズに過ごせるよう、今後も情報の共有に努めたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		現在、医療的ケアが必要な子どもを受け入れてはいないが、今後、ニーズに応じて受け入れ態勢を考えていくことも検討していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	70%	30%		情報共有できている機関もあれば、連携を取れていない機関もあるので、幅を広げていけるよう努力していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		専門の相談員やその者に詳しい者が、情報等の提供に努めている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		研修を受ける時間を確保し、受けた者が全職員に周知できるよう努めている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%		年に一度ではあるが、地域の方や障がいのない子どもと交流できる企画を設けている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		現在、貝塚市で該当する協議会はありませんが、他事業所とのつながりを大切にしていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎時の申し送り、懇談等で伝える場を設けている。	今後もより良い関係を築いていき、同じ認識を持ち、支援に努めていきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%		関係を深めていくことで、更なるペアレント・トレーニングに努めていきたい。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		契約時にきちんと説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	個別支援計画書等を活用し、助言や支援を行っている。	悩みや相談等での困り事に対して、早急に返事ができるよう、職員同士で話をし、解決に努めていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%		コロナの影響により、開催ができていないが、状況に応じて、行っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		苦情があった際は、職員全員で話し合い、改善に努め、迅速かつ丁寧に対応していくよう心掛けている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	会議に出席できない職員には、後日改めて伝え、皆に周知できるようにしている。	年間計画、毎月のお手紙、HPIによる活動風景などを通して、保護者に発信している。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		今後も、個人情報に十分に注意して、努めていきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		適切な対応を行っていけるよう、日々学ぶ意識を持ちながら努めていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		コロナの影響により、開催ができていないが、状況に応じて、行っていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	60%	40%		マニュアルを見返し、内容を補足し、策定できなかったものを職員、保護者に周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に一度、消防署を見学し、身近に体験できる企画をしている。	引き続き、定期的な避難訓練を実施していき、子どもたちが安心して過ごせるよう、努めていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		内部・外部研修を通して、虐待防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		身体拘束は行っていないが、気持ちを落ち着かせるための、スペースは確保している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%		保護者の意見書の元、対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		ヒヤリハットがあれば、作成し、職員間で共有している。ヒヤリハットの件数をなくしていけるよう、気を付けて支援していきたい。